

令和3年度 各委員会の年間調査テーマ

半田市議会では、各委員会が目的意識をもって調査テーマを設定し、課題の解決に向けて調査・研究を1年間行い、市に対して提言をしています。今年度の調査テーマについては以下のとおりです。

総務委員会

行政における民間人材の活用について

多様化する住民のニーズへの対応や、情報通信技術の発展と急速に進化するテクノロジーの活用に向けて、行政で求められる知識の専門性は年々高まっています。

このような急激な変化の時代にあつて、民間高度専門人材を採用・活用している自治体が増えてきています。

本市においても、新たな行政需要に関する業務（DXなど）については、自治体内部に当該業務の専門家は存在しないため、民間から専門人材を確保することを検討する必要があります。とはいえ、と

そうした民間人材を採用している先進自治体の状況などを踏まえ、民間人材の活用に関する方向性について調査研究します。

文教厚生委員会

重層的支援体制整備事業について

〜相談支援の連携の推進について〜

近年、住民が抱える福祉的な課題は、複雑化・複合化しています。8050問題やダブルケア、社会的孤立など、従来の社会保障制度の支援体制ではケアしきれないケースが発生しています。

このような課題に対応するために、国は、令和2年度に社会福祉法を改正し、「重層的支援体制整備事業」を創設しました。この事業では、まち全体で断らない包括的な支援体制を構築し、制度の狭間の複合的な課題に対応するために属性や世代を問わない包括的な相談受付、社会との繋がりがづくり、住民同士が交流できる居場所の整備を一体的に行うこととしています。

半田市においては、令和3年4月から、相談支援のアウトリーチ事業を開始したところです。文教厚生委員会では、半田市における「重層的支援体制整備事業」の今後のあり方を調査研究します。

建設産業委員会

ゼロカーボンシティを目指す第一歩

〜さらなるごみ減量に向けて〜

半田市では、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロにすることを目指す「ゼロカーボンシティ」を2020年2月20日に表明しました。

しかし、聞き慣れない言葉であり、どのようなことなのかもまだ理解が深まっていない現状があります。目的実現に向けて、一番身近な課題でもあり、誰もが取り組むことができる「ごみ減量」などの具体的、効果的な取組みをさらに推進するために調査研究し、ゼロカーボンシティを目指す第一歩とします。

尚、ごみ減量の取組みについては、平成30年度の建設産業委員会のテーマとして取組みましたが、結果減量には至っておらず、再度調査研究することに値すると考えます。

6次産業化調査特別委員会

6次産業化を進めるための調査研究をしていきます。

- 委員長 小出 義一
- 副委員長 國弘 秀之
- 委員 嶋崎 昌弘
- 伊藤 正興
- 中村 和也
- 山田 清一
- 加藤 美幸
- 岩田 玲子
- 竹内 功治
- 澤田 勝

定住人口増加策調査特別委員会

定住人口の増加策について、調査研究していきます。

- 委員長 中川 健一
- 副委員長 沢田 清
- 委員 新美 保博
- 水野 尚美
- 小栗 佳仁
- 芳金 秀展
- 坂井 美穂
- 鈴木 健一
- 石川 英之